

林政ニュース

RINSEI NEWS

隔週刊

隔週水曜日発行

平成6年6月9日第三種郵便物認可



森と木と人のつながりを考える

(株)日本林業調査会

発行所 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-28
飯田橋ハイタウン204

TEL (03)6457-8381 FAX (03)6457-8382

MAIL info@j-fic.com

取引銀行 三井住友銀行飯田橋支店(普)810522

郵便振替 00160-8-98120

発行人 辻 潔

年間購読料22,000円(1部1,320円、消費税込み)(禁無断転載)

再生紙を使っています。

インターネット・ホームページ <http://www.j-fic.com/>

2024(令和6)年8月7日(水)

第730号

■ニュース・フラッシュ

- 2025年度予算概算要求の目玉は集積・集約化対策
- 全国知事会のPTが提言、木材セラピーなど学ぶ
- 全素協課題検討部会が鹿島建設とDX巡り意見交換
- 外資の森林買収や「盗伐」収束傾向、件数落ち着く
- リサイクル石膏50%以上の「タイガーR50」発売

■譲与税を追う

北海道旭川市 「家具のまち」が約1億円を“国産材回帰”に活かす

■遠藤日雄のルポ&対論

先人の遺志を継ぎ飛躍を目指す伊万里木材市場・中

■広葉樹を活かす!

40年サイクルの確立へ産学結束!白樺プロジェクト

■地方のトピックニュース

- 金山町森組などが再造林推進協定、木分協が寄付
- 「木曽式伐木運材図会」を報道機関らに限定公開
- 能登の復旧・復興へ石川県が林務職員10名募集
- 福井市が県民衛星データを山地災害対策等に活用

■寄稿

ユーカリ植林の時は来たり!

3

8

10

14

17

21



北海道の旭川市が森林環境譲与税を使って木材利用を推進している。家具産地のシンボルとして建設した新庁舎の議場は、梁にアーチ状のカラマツ集成材、内装材にトドマツを使用した重厚感のある大空間になっている。(関連記事p8参照)

広葉樹を活かす！ 40年サイクルの確立へ産学結束！白樺プロジェクト



偽心を使った家具

あえて赤身部分の偽心を使った家具、シラカバを立ち木のまま使用したオブジェなどは、専門家の間でも評判になっていく。飲食店やホテルのラウンジなどに立ち木のオブジェを設置すると、シラカバ林があるような空間になる。代表理事の鳥羽山氏は、「手間暇はかかっているが、『北海道の森が来た』と喜ばれている」



旭川デザインセンターの一角にある白樺プロジェクトのブース

んでいる。

シラカバを余すことなく利用するのがモットーで、同プロジェクトの協力者らと連携して、木部は内装材、家具材、楽器材などに、樹液は化粧水、飲料水に、樹皮は伝統工芸品に、枝葉はハーブティーやサウナで使用するヴェヒタに加工している。

同プロジェクトでは、これまでにシラカバの特長を活かした家具や内装材を大小合わせて30点以上納品してきた。

とくに、樹皮付きの収納ボックスや、

北海道の森林を訪ねると白く滑らかな樹皮で一際存在感を放つ樹木がある。そう、シラカバだ。主にバルブ用チップ材として利用されているが、5年ほど前からシラカバ1本を丸ごと活かす取り組みが本格化している。旗振り役である一般社団法人白樺プロジェクト（北海道旭川市、鳥羽山聡・代表理事）の近況をレポートする。

「ずっと、使う。ずっと、育てる。」で多彩な製品を開発

白樺プロジェクトは、2018年に産学のメンバー10名が集まって発足した。活動の合言葉は、「ずっと、使う。ずっと、育てる」。各メンバーが本業を持ちつつ得意分野を活かして、家具の製作や樹皮採集ワークショップ、森林ツアー、研究開発などに取り組

広葉樹を活かす！

40年サイクルの確立へ産学結束！白樺プロジェクト



鳥羽山聡・白樺プロジェクト代表理事

む「木と暮らしの工房」（東川町）を設立していた。「ナラやタモなどの大径材や優良木が少なくなったので、様々な樹種を試していた。その中でシラカバに出会い、仲間も増えてきて『白樺プロジェクト』が立ち上がった」と当時を振り返る。

現在の顔ぶれは、鳥羽山氏の他に家具のデザイナーや職人、建築家などの7名と、秋津氏や北海道大学教授の吉

白樺プロジェクトが発足したそもそもの契機は、約10年前に北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場の秋津裕志氏が、シラカバを研究対象にしたこと。調べていくうちに、シラカバがサクラやクルミと同等の強度を持つことがわかった。

これを踏まえ、秋津氏は、2016年にシラカバの家具をつくらないかと関係者に声をかけた。これに鳥羽山氏が呼応した。

鳥羽山氏は、2002年に家具の修理再生と特注家具の製作を営む「木と暮らしの工房」（東川町）を設立していた。「ナラやタモな

研究者の声かけに応じて発足、「使う」だけでなく「育てる」

樹皮は熱や薬品に弱く、扱い方を誤るとあっという間に変色するので注意が必要だ。鳥羽山氏は、「失敗を重ねながら乾燥・保管のノウハウを培ってきた。これからも協力者の力を借りながら研究していく」と話す。



シラカバの樹皮や樹液を使った商品



シラカバの立ち木

と話す。

シラカバの原木を調達する際には、白い樹皮の立ち木を春先に選んで伐採する。伐採後はブル

広葉樹を活かす！

40年サイクルの確立へ産学結束！白樺プロジェクト



森林ツアーでの樹皮はぎ
(画像提供：白樺プロジェクト)

羽山氏は、「一般の人々にシラカバの生態などを知ってもらい、森づくりの魅力を広げていきたい」と狙いを話す。今後の目標は、「まず40年サイクルの循環利用を確立する」としており、「シラカバの育成と利用が経済的に成り立てば、ナラやタモの成長を待つ時間が得られる。結果として、道内の森林が豊かになる」と未来を見据えている。

同プロジェクトでは、市民参加型の間引き体験や樹皮はぎ、若葉採集などのワークショップや森林ツアーも開催している。フィールドは北大研究林にとどまらず、関係者の山林にも広がっている。鳥

以上のシラカバに育ち、用材として収穫できる。

シラカバの育成については、北海道大学北方生物圏フィールド科学センターの演習林で40年以上研究されている。白樺プロジェクトは、同センターと包括連携協定を結んでおり、その知見やネットワークを活用している。

市民参加で持続的な森づくりを進め、ナラやタモの成長を待つ

シラカバの育成については、北海道大学北方生物圏フィールド科学センターの演習林で40年以上研究されている。白樺プロジェクトは、同センターと包括連携協定を結んでおり、その知見やネットワークを活用している。

田俊也氏、静岡大学准教授の横田宏樹氏という研究者で構成されている。